

公開セミナー 農業生産を支える土の中の小さな生物

3月17日、秋葉原コンベンションホール(東京都千代田区)において、農業環境技術研究所公開セミナー「農業生産を支える土の中の小さな生物」を開催しました。

環境にやさしい低投入・持続的農業生産への関心が高まっているなか、この公開セミナーでは、さまざまな生物が持つ有用な機能を農薬や肥料の代替物として活用することで、減化学農薬・減化学肥料に役立てるための先進的な研究を行っている研究者を招いて講演をいただきました。また、土壌に生息する小動物や微生物の機能や多様性を明らかにする研究、土壌生物の機能を持続的な農業に生かすための基礎研究など、農業環境技術研究所で得られた研究成果を紹介しました。



セミナーには、さまざまな民間企業やNPOなどの団体関係者の方々、および多くの農家の方々を含む一般市民の方々に参加いただき、農業と農業にかかわる微生物・小動物に対する関心の高さが伺われました。

(生物生態機能研究領域長 藤井 毅)

平成26年度 農業環境技術研究所評価委員会

評価委員会は、農環研の業務運営に対する自己評価の客観性を高める観点から、外部専門家・有識者の方々に業務運営全般に対する評価をお願いしているものです。今年度は、以下の方々に評価委員をお願いしました(所属・役職名は評価委員会当日のもの)。

[評価委員]大木美智子(一般財団法人消費科学センター代表理事)、大沼あゆみ(慶應義塾大学経済学部教授)、北宜裕(神奈川県農業技術センター所長)、古在豊樹(千葉大学名誉教授、委員長)、三枝正彦(豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター特任教授)、佐々木みさ子(宮城県生活研究グループ連絡協議会会長、JAみどりの理事)、森田満樹(ライター、消費生活コンサルタント)

昨年6月の独立行政法人通則法改正により評価制度が変更されたことから、3月13日に当所大会議室において開催した評価委員会では、例年通りの平成26年度の業務実績に加え、平成27年度の「見込み」を含む第3期中長期目標期間(5年間)の業務実績が評価の対象となりました。評価委員からは、特に第3期全体の業務実績に意見が寄せられ、カドミウムや放射性セシウムへの対応に関する研究成果に高い評価をいただくとともに、研究所の総合力を発揮して、研究成果のPRに務め、より一層研究成果が社会還元されることに期待が寄せられました。また、コスト意識の醸成など、業務運営についても言及がありました。委員会終了後、各評価委員による採点・コメントを集約し、評価結果として取りまとめることとしました。

(企画戦略室長 西田 智子)

